

## II 研究の実践

### 取組1 カリキュラム・マネジメント班の取組について

カリキュラム・マネジメント班は、教務主任を中心に昨年度の研修を基にしてカリキュラム・マネジメントの3つの側面を見直し、(1)～(3)の教科等横断的な視点を基にした資料作りや体制作り、短期的PDCAによる取組の評価体制の確立、人的又は物的な体制を確保する取組の研究を行った。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、昨年度に立案した内容が実践できなかったことも多かったが、可能な限り実践した。

#### (1) 教科横断表現カシート（教科等横断的な視点による取組）

今年度の研究主題である「学びのつながりを活かした、主体的に学び考えを広げ深めることのできる生徒の育成」に向けて、各教科の特徴や強みを活かして教科横断的な視点に立った指導ができるように教科横断表現カシートを作成した。教科横断表現カシートは、年間指導計画が大幅に変わってしまったために、作成した資料のうち11月の表現力に関わる学習内容をまとめたものである。上段に11月に行われる各教科の単元を、下段にその単元のうち本校が目指す表現力に関わる学習内容を具体的に記載した。これは校内研修だよりで全教員に配布して授業づくりに活かせるようにした。

#### (2) カリキュラム・マネジメント分析シート（短期的PDCA体制の確立）

昨年度作成したカリキュラム・マネジメント分析シートをもとに、短期的PDCA体制の確立に努めた。年間指導計画や行事の改善や変更等を検討する際、それぞれの分掌でカリキュラム・マネジメント分析シートと照らし合わせながらその内容や活動の見直しを行うようにした。

#### (3) 地域人材活用一覧表（人的又は物的な体制を確保する取組）

本校は、以前から地域の方に様々な形で協力いただく活動がある。今年度はそれらを教員が共通理解しやすいように一覧表としてまとめた。今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策のために、実施できないものも多いが今後に向けて学校と地域をつなぎ、発展できるように活用していきたい。

## 取組 2 授業改善班の取組について

授業改善班は、校内研修主任を中心に今年度の研究の柱である表現力の育成に向け、一中スタンダードⅡを活用した授業改善に取り組んだ。一中スタンダードⅡは、授業の流れを教師目線でまとめた（１）「一中授業スタンダードⅡ」、表現力に焦点を当てた指導方法である（２）「一中表現力アップシート」、生徒が授業を受ける際のポイントを生徒目線でまとめた（３）「一中授業のポイント」の（１）～（３）で構成されている。昨年度、はばたく群馬の指導プランⅡを基に作成した一中スタンダードを、今年度の研究に合わせて一中スタンダードⅡとして改良し、共有・実践した。一中スタンダードⅡを活用することで、どの教科の授業でも同じ流れで展開されることで、生徒は見通しをもって授業を受けられることになった。

また、今年度の教科部会では、発表教科の４教科に他教科の先生も参加する拡大教科部会として研究を進めた。他教科の先生が加わることで、多くの意見が出され授業改善につながった点も多く、各教科の見方・考え方と教科の特性を活かした表現力をまとめることで、取組１にも通じる教科等横断的な視点に立った指導ができるようにした。

### （１）一中授業スタンダードⅡ（教師向け）

今年度の研究を踏まえて、教師の授業の仕方を一中授業スタンダードⅡとして作成し全教員に配布して活用し授業改善に努めた。これは、はばたく群馬の指導プランⅡに示された単位時間の流れを基にして、導入・展開・まとめまでの流れで構成されている。展開の場面で、今年度の研修の柱である表現力に関わる「はっきり表現させる」指導の仕方や、表現力育成のためのポイントを記載して、同一歩調で目指す生徒像に向けて授業ができるようにした。

### （２）一中表現力アップシート（教師向け）

一中授業スタンダードⅡの「はっきり表現させる」場面で、表現力を養うためのポイントを一中表現力アップシートとして作成し、校内研修の時間を中心に、定期的に確認し合った。本校が目指す表現力を身に付けた生徒の姿を全教員が共通理解した上で学習指導できるようにした。

### (3) 一中授業のポイント（生徒向け）

一中授業スタンダードⅡと一中表現力アップシートを基にした授業において、生徒が意識して欲しいポイントを一中授業のポイントとしてまとめ、各教室に掲示した。特に、伝え合いや考えをまとめる場面での生徒の姿勢や態度を示すことで効果的に学習に取り組めるようにした。

### (4) 校内研修・教科部会の工夫

今年度は、11月2日（月）の公開授業に向けて、校内研修や教科部会の持ち方を検討した。教科部会では、専門教科以外の教科の担当も参加することで様々な視点から授業検討会などを行い、活発な意見交換や検討がなされるようにした。また、校内研修全体会の回数を増やし、授業案・指導案検討や対教師による模擬授業を実施した。校内研修後には、研修の内容や様子を校内研修だよりとして作成し、教員に配布して研修内容を振り返られるようにした。加えて、校内研修の時間以外にも、頻繁に部会を開いたり検討し合ったりすることで、学校が丸となって研究を進めていった。

### (5) 一中『見方・考え方』と『表現力』

教科部会の中で各教科の『見方・考え方』を整理し、それを基に教科の特性を活かした『表現力』を一覧にしてまとめた。専門教科だけの視点でなく、他教科の視点も意識した学習指導ができるようにした。

### (6) 学力アンケートによる評価・分析

今年度の研究の成果と課題を評価するために、生徒アンケートと教師アンケートを行った。アンケートの結果、一中スタンダードⅡによる授業改善に対する項目のポイントが高く、授業改善への一定の成果が見て取れた。また、生徒の自由記述には、「新型コロナウイルス感染症の影響で授業時間が限られている中、話し合いや意見を発表する機会を去年よりも多く取ってくれた。」などの記述が多く、研究主題に向けて一中スタンダードⅡを基にした授業を行っていたことが分かった。

### 取組3 学習改善班の取組について

学習改善班は、学力向上コーディネーターを中心に、授業と家庭学習をつなげる取組を検討し実践した。授業の内容が家庭学習とつながり、家庭学習が授業に活かされれば、学習の質の向上が期待でき、授業時間を有効活用できるであろうと考えた。今年度は、授業と家庭学習をつなげるために、宿題や課題の出し方を検討した。習熟に関わる内容や、次回の授業内容に関わることを宿題や課題で提示し家庭学習で取り組ませ、その内容を次の授業でつなげることで授業時間の効率が上がり、意見交流や発表などの表現力を養う時間を確保できるようにした。そのための取組として（１）「家庭学習のてびき」と（２）「学びアップカード」について検討し実践した。どちらも例年行っていたが、授業と家庭学習のつながりを踏まえて内容を見直し大幅に刷新した。

#### （１）家庭学習のてびき

家庭学習のてびきは、授業と家庭学習をつなげることを中心に5教科の学習方法を検討し内容をまとめてファイルを作った。家庭学習のポイントと簡単家庭学習メニューを提示し、それぞれの教科で家庭学習のメニューや見本を見ながら家庭学習に取り組めるようにした。各学級で家庭学習のてびきを活用した家庭学習の進め方について指導した他、充実した家庭学習の例を生徒に配りファイルに綴じ込むことで家庭学習の取組の幅が広がり、授業とのつながりを強められるようにした。

#### （２）学びアップカード

本校は昨年度まで、学期に一回家庭学習の取組内容や時間を評価する「学びアップカード」を行ってきた。今までは、学習時間を重視するような取組であったが、今年度は授業内容を基に学習内容の計画を立てて実践し、学習内容を自己評価する形式に作り替えた。学習計画では、生活ノート（ライフ）を使うことで、次の日の学習予定と照らし合わせて学習計画を立てられるようにし、学習後に振り返ることができるようにした。